

【夏越の大祓(なごしのおおはらえ)】

旧暦の6月末に行われる「夏越の祓」は、半年分の穢れ(ケガレ)を落とす行事で、この後の半年の健康と厄除けを祈願します。由来は神話の伊弉諾尊(いざなぎのみこと)の禊祓(みそぎはらひ)にまで遡るそうですが、新暦に移った現在でも、6月30日ごろ日本各地の神社で行なわれている伝統行事です。

疫病の流行防止や悪疫退散も願う「茅の輪くぐり」を、“密集・密接・密閉”を避けて行っては如何でしょうか？

■「夏越の祓」と「年越の祓」

半年に一度の厄落としてある6月の「夏越の祓」。さらに半年後の12月末には、同様に厄除けをする「年越の祓」があります。この二つは対になる行事で、心身を清めてお盆や新しい年を迎えるためのもの。大晦日の年越し行事のような派手さはありませんが、「夏越の祓」も大切な節目の行事とされています。

■「茅の輪くぐり」(ちのわくぐり)で厄落とし

厄落としの方法として「茅の輪くぐり」が行われます。

茅の輪とは、チガヤという草で編んだ輪のことです。神社の境内に作られた大きな茅の輪の中を「水無月の夏越の祓する人は、千歳(ちとせ)の命延(の)ぶ」といなりと唱えながら8の字を書くように3度くぐり抜けます。茅の輪をくぐることで、病気や災いを免れることができるとされています。

「茅の輪くぐり」については、神話に基づいているといわれています。

昔、ある兄弟のところに、一人の旅人が現れて一夜の宿を乞いました。裕福な兄は旅人を冷たく断り、貧しいながらも弟の蘇民将来(そみんしょうらい)は温かく旅人をもてなしました。数年後、旅人が恩返しにと再び蘇民を訪れますが、実はこの旅人はスサノオノミコトで、その教えに従って茅の輪を腰に付けたところ、疫病から逃れられ、子々孫々まで繁栄したということです。

この故事に基づき、家の玄関に「蘇民将来札」という札を貼り、厄除けにするという風習も残っています。



■人形(ひとがた)を流して厄落とし

人形(ひとがた)とは、人の形を模した紙の形代(かたしろ)です。人形に自分の名前や年齢などを書き、それで体を撫でて人形に罪やケガレを移し、身代わりとして神社に納めます。人形を川に流したり、篝火を焚いたり、水や火を使う神事で清め、厄を落とします。

紙だけでなく、藁などで人形を作るところもあります。

また、お清めのために人が直接、川や海に入る地方もあります。

■「水無月」を食べて厄落とし

冷房も冷蔵庫もない時代、蒸し暑くなる7月は、しばしば病気がはやりました。体力も消耗するので、甘く食べやすいお菓子でエネルギーを補給し、厄祓いをしてきたようです。

京都には「夏越しの祓」の日に食べる伝統的な和菓子があります。「水無月」と呼ばれ、ういろうの上に邪気を祓うあずきがのった三角形のお菓子で、三角形は削りたての氷を表しています。

昔、宮中では旧暦6月1日に「氷の節句」が行われていました。冬にできた氷を山間の氷室(ひむろ)に貯蔵しておき、そこから取り寄せた氷を口にして夏を健康に過ごせるよう祈るというものです。

しかし、庶民にとって氷は高嶺の花。そこで氷をかたどった三角形の生地に厄除けの小豆を散らしたお菓子が作られたのです。「水無月」は庶民の氷へのあこがれからできた銘菓。現在では夏越の祓の日の和菓子として親しまれています。



【「茅の輪くぐり」が出来る神社】

通常は神職に続いて参拝者も「茅の輪くぐり」をしますが、今年はコロナ対策として、神職だけが齋行する神社が多いようです。茅の輪は6月30日以前に設置されていることが多いので、日時に左右されずに自由に行うことができます。

★東京では、

- ・東京十社では大体は齋行するようです。芝大神宮、品川神社、赤坂氷川神社、日枝神社、王子神社、根津神社、神田明神、亀戸天神、富岡八幡宮。白山神社は行わない？
- ・明治神宮・代々木八幡宮(渋谷区)、東京大神宮(飯田橋)、湯島天神、花園神社(新宿区)、浅草神社・下谷神社(台東区)、世田谷八幡宮・太子堂八幡宮(世田谷)、
- ・穴澤天神社(稲城市)
- ・その他

★川崎では、

- ・稲毛神社・若宮八幡宮(川崎区)、琴平神社(麻生区)、溝口神社・久本神社・諏訪神社(高津区)、菅生神社(宮前区)
- ・その他

★横浜では、

- ・伊勢山皇大神宮・水天宮平沼神社(西区)、菊名神社・師岡熊野神社・篠原八幡神社(港北区)、神鳥前川神社(青葉区)、長津田王子神社(緑区)、
- ・その他

★その他

- ・笠間稲荷神社では、「車の茅の輪くぐり」も行われるが、今年はコロナのため中止。神職のみによる齋行。
- ・富士山本宮浅間大社(富士宮)
- ・平塚八幡宮では、新型コロナウイルスの終息を願い、5月17日に直径3・3mの茅の輪が設置された。
- ・大山阿夫利神社、